

第4学年 音楽科学習指導案

い組 男子17名 女子17名 計34名
指導者 渡邊 健二

1 題材 リズムで遊ぼうⅠ

教材 ◎「ブラジル」 バホーゾ作曲
「いろいろな木の実」 中山知子作詞 西インド諸島民謡（本時主教材）

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第3学年題材「リズムにのって」において、拍の流れのリズムに合わせて歌ったりリズムづくりをしたりする活動を通して、リズムの特徴を生かした表現の楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、曲想にふさわしいリズム伴奏をつくったり、いろいろな音色の楽器で演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、本題材では、曲想に合うリズムフレーズをつくったり歌と合わせてリズム伴奏をしたりする活動を通して、拍の流れを感じ取りながら歌ったり、自分でつくったリズムフレーズを演奏したりする能力を育てるとともに、リズムの組合せや楽器の音色に関心を持ち、拍の流れにのって進んで表現しようとする意欲や、曲想に合うように自分の思いや意図をもってリズムフレーズのつくり方や楽器の音色の組合せ方を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「リズムで遊ぼうⅠ」を設定した。

ここでの学習では、自分の声を用いてつくったリズムフレーズを重ねたり組み合わせたりする活動を通して、音楽の仕組みを生かしてつくったり、拍の流れにのって演奏する能力を育てる第5学年「リズムで遊ぼうⅡ」の学習に発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

拍の流れを感じ取りながら歌ったり、自分でつくったリズムフレーズを演奏したりする能力を高めるためには、様々なリズムにふれさせたり、リズムをつくらせたりする活動を通して、曲想にふさわしいリズムフレーズや楽器の組合せ方を工夫することの楽しさを味わえるようにすることが効果的である。

特にこの期の子どもたちには、自らの表現の良さに気付くよう、互いの演奏を聴き合うようにする活動が大切である。また、楽器の音色の組合せ方を工夫したり、いろいろな楽器の音色に気付いたりしながら表現していくことが大切である。

具体的には、まず、「ブラジル」を取り上げる。「ブラジル」は、自然と体が動き出す軽快なサンバのリズムにゆったりとしたメロディが重なり、リズムや旋律、リズムフレーズなどの音楽を特徴づけている要素や、反復などの音楽の仕組みを聴き取ることができ、メロディとリズム伴奏の組合せの面白さを感じ取ることができる楽曲である。そこで、ここでは、旋律やリズムフレーズに合わせて体を動かしながらサンバのリズムを感じたり、リズムフレーズの組合せによる曲想の変化を感じ取ったりする活動を通して、リズムを感じ取って表現することの楽しさを味わえるようにする。

次に、「いろいろな木の実」を取り上げる。この楽曲は、ユーモラスな歌詞が曲調に合って、楽しく歌ったり、演奏したりできるものである。また、リズムや様々な楽器の組合せを工夫して演奏することもできる。そこで、ここでは、自分の思いや意図をもって工夫したリズム伴奏と歌を合わせて演奏する活動を通して、リズム伴奏によって曲の感じが変わる面白さや楽しさを味わうようにする。

このような学習を通して、子どもたちは曲想にふさわしいリズムフレーズや楽器の組合せ方を工夫して表現することへの関心・意欲を高め、思いや意図をもって進んで音楽にかかわっていきこうという態度を養うことができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 4年い組 男子17名 女子17名)

本学級の子どもたちの実態は次の通りであった。

①	リズムにのって演奏することは好きですか。 はい(32) いいえ(2)
②	それはどうしてですか 【「はい」の理由】(複数回答) ・楽しいから(21) ・体が自然に動くから(5) ・面白いから(5) ・元気に歌えるから(2) ・曲の感じが分かりやすくなるから(1) ・友達と一緒にリズムに合わせると面白いから(1) ・歌いやすくなるから(1) 【「いいえ」の理由】 ・間違えたら恥ずかしいから(2) ・みんなと合わせるのが難しい(1)
③	リズム模倣をするときは、どんなことに気を付けていますか。 ・よく聴く。(17) ・演奏する先生をよく見る。(3) ・リズムがずれないように気を付ける。(2) ・休符がどこにあるか気を付けている。(2) ・体を動かしながら聴いている。(2) ・拍を数える。(1) ・頭の中で絵を想像しながら聴いている。(1)
④	教師のリズムを模倣してみましょう。 ・模倣できる。(33) ・できない。(1)
⑤	8拍のリズムフレーズをつくってみましょう。 ・できる。(28) ・できない。(6)

①, ②から、多くの子どもたちがリズムにのって演奏することが好きであることが分かる。一方、「いいえ」と答えた子どもたちは、間違えたときの恥ずかしさや、合わせて演奏することの難しさを理由に挙げている。拍を数えることが苦手で、周りの友達の演奏とずれてしまった経験などが要因として考えられる。

③から、リズム模倣をするときは、よく聴いたり、演奏者の動きをよく見たりすることに気を付けている子どもが多いことが分かる。中には、休符に気を付けるなど自分なりに考えている子どももいるが、ほとんどの子どもは、自分なりの考えがないままにただ模倣をしているということも分かる。

④から、ほとんどの子どもがリズム模倣をすることができることが分かる。中には、休符のところで演奏してしまうなど、拍を数えることができない子どもも見られた。

⑤から、自分でリズムフレーズを作り出すことができる子どもが多いことが分かる。一方、途中で拍の流れが分からなくなってしまう、限られた拍の中で演奏することができない子どもたちもいた。既習の楽曲を聴きながら手拍子をしたり、体を横に揺らしたりなど体を動かすことで拍の流れを感じさせる手立てが必要である。

(4) 指導上の留意点

ア 課題把握・課題追及Ⅰの過程では、リズムフレーズの反復や組合せが、曲想にかかわっていることをとらえられるようにしていく。そのために、既習の楽曲と本題材の楽曲を比較鑑賞する活動を取り入れる。その際、曲想に関わる要素は何か、話し合いながら課題意識を共有する場を設定する。さらに、見つけたリズムフレーズを表現できるようにするために、音符や休符のカードを用いて可視化し、拍を意識させながら手拍子でリズム模倣をしたり、ワークシートに記録したりする活動を取り入れる。

イ 課題追及Ⅱの過程では、曲想に合わせてリズムフレーズをつくったり、リズム伴奏をしたりすることができるように、主旋律のリズムとリズム伴奏のリズムを比べながら、どのようなリズムの組合せが曲想に合うか、ワークシートに記入しながらリズムフレーズをつくる活動を取り入れる。その際、グループ内で互いの演奏を聴き合ったり、録音した演奏をもとに振り返ったりして、曲想に合うリズム伴奏になっているか、確かめながら活動する場を設定する。

ウ 課題追及Ⅲ・まとめの過程では、グループごとの最終発表を通して、発表に至るまでの振り返りができるようにする。その際、友達のアドバイスがどのように生かされたか振り返ったり、自分や友達が工夫したことを振り返ったりしながら、学び合いを通した音楽表現で技能を高めることのおよさや楽しさを味わうようにする。

3 目標

- (1) リズムの組合せや楽器の音色に関心を持ち、曲想に合うような演奏ができているかを振り返りながら進んで活動に取り組むことができる。
- (2) 曲想に合うリズムフレーズをつくり、歌と合わせてリズム伴奏をする活動を通して、自分の思いや意図をもってリズムフレーズやリズム伴奏を工夫することができる。
- (3) 拍の流れを感じ取りながら歌ったり自分でつくったリズムフレーズを演奏したりすることができる。

4 指導計画（全6時間）

過程	思いや意図を連続・発展させる心の高まり	教材	主な学習活動	教師の働きかけ	
課題把握	<p>なんだかわくわくする曲だな。体を動かすと、リズムにのれるよ。</p> <p>わくわくするのは、リズム伴奏をしている楽器に秘密がありそうだ。</p> <p>リズム伴奏をしてみたら、わくわくする感じが出て、面白いな。</p>	「ブラジル」 ①～②	<p>リズムや楽器の音色に気を付けてきこう。</p> <p>○ 「ブラジル」を聴き、曲の感じや演奏している楽器の音色について話合う。</p> <p>○ 体を動かして、サンバのリズムを感じ取る。</p> <p>○ 手拍子や足拍子をして、4拍子の拍の流れを感じ取る。</p>	<p>○ 課題意識を共有するために、リオのカーニバルの写真を見せたり、リズムに合わせて体を動かしたりしてわくわくする曲の感じを楽しみながら感じ取らせる。</p> <p>○ 曲の感じとそれを特徴付けるリズム伴奏の関わりに気付かせるために、「感じたこと」と「気付いたこと」に分けて板書をする。</p> <p>○ サンバのリズムや4拍子の拍の流れを感じ取らせるために、体を横に動かしたり、手拍子、足拍子をしたりなど体の動かす活動を取り入れる。</p> <p>○ リズム伴奏をとらえやすくするために、音符や休符のカードを用いて可視化する。その際リズムの組合せが明確になるように音符や休符のカードを整理して並べ、ワークシートに記録させる。</p>	
課題追求Ⅰ	<p>この曲は、なんだか楽しい感じがする曲だな。</p> <p>どんな楽器でどんなリズム伴奏にすれば、楽しい感じの曲になるかな。</p> <p>友達にアドバイスをもらおうと工夫できそうだ。</p>		<p>楽器やリズムを組み合わせて、サンバのリズムを演奏しよう。</p> <p>○ 範奏を聴き、楽器の音色やリズム伴奏について話合う。</p> <p>○ グループごとに役割を決め、練習する。</p> <p>○ グループごとに発表する。</p>		<p>○ 曲の感じとそれを特徴付けているのはリズム伴奏であることに焦点化するために、「ブラジル」と比較鑑賞させたり、ワークシートを振り返らせたりする。</p> <p>○ 主旋律のリズムをとらえやすくするために、音符や休符のカードを用いてシンコペーションのリズムを可視化する。</p>
課題追求Ⅱ	<p>リズムの組合せで楽しい感じが出せてきたぞ。</p> <p>今までのアドバイスを生かした発表ができるように頑張ろう。</p> <p>他の曲でも楽器やリズム伴奏を工夫して演奏したいな。</p>	「いろいろな木の実」 ③～⑥	<p>リズムにのって歌おう。</p> <p>○ 「いろいろな木の実」を聴いて、曲の感じを話合う。</p> <p>○ 音符や休符のカードを見ながらリズムにのって主旋律を歌う。</p>	<p>○ 曲の感じに合うリズム伴奏をつくるために、「ブラジル」と比較鑑賞させたり、ワークシートを振り返らせたりする。</p> <p>○ 主旋律のリズムをとらえやすくするために、音符や休符のカードを用いてシンコペーションのリズムを可視化する。</p> <p>○ 曲の感じに合うリズム伴奏をつくるために、主旋律とリズム伴奏のリズムを比べたり、既習の楽器の音色を試したりする活動を取り入れる。</p> <p>○ 曲の感じに合うリズム伴奏をつくるために、グループ内で聴き合ったり、歌と合わせたりして練り上げる。</p> <p>○ 中間発表を行い、お互いにアドバイスをする。</p>	
課題追求Ⅲ			<p>曲の感じに合うリズム伴奏をつくろう。【本時】</p> <p>○ 主旋律に合うリズム伴奏をつくる。</p> <p>○ つくったリズム伴奏に合う音色の楽器を探す。</p> <p>○ グループ内で聴き合い、曲の感じに合っているか、お互いにアドバイスをする。</p>		<p>○ 曲の感じに合うリズム伴奏をつくるために、グループ内で聴き合ったり、歌と合わせたりして練り上げる。</p> <p>○ 中間発表を行い、お互いにアドバイスをする。</p>
まとめ			<p>リズム伴奏と歌を合わせて合奏しよう。</p> <p>○ 友達からのアドバイスをもち、さらに工夫できるところを話合う。</p> <p>○ グループ内で聴き合ったり、歌と合わせたりして練り上げる。</p> <p>○ 中間発表を行い、お互いにアドバイスをする。</p>		<p>○ 曲の感じに合うリズム伴奏をつくるために、ワークシートに記入したことを振り返らせる。</p> <p>○ 学び合いを通じた音楽表現のよさや面白さを味わわせるために、最終発表に向けて、友達からのアドバイスがどのように生かされているか述べられるようにしておく。</p> <p>○ 自分や友達の高まりを感じるために、最後まで取り組めた要因や、技能面での高まりを振り返らせ、ワークシートに記録させる。</p>
			<p>最終発表をしよう。</p> <p>○ 記録をもとに中間発表までのアドバイスを振り返りながら、最終的な確認をする。</p> <p>○ グループごとに発表する。</p> <p>○ 学習のまとめをする。</p>		
			<p>・ 曲の感じが合うように、楽器の組合せ方を工夫するのが楽しかった。</p> <p>・ 友達と合わせてリズム伴奏を演奏できた。</p>		

5 本 時 (4 / 6)

(1) 目 標

使用する楽器の音色やリズムに関心をもち、自分の思いや意図をもってリズムの組み合わせや楽器の音色を試したり、振り返ったりしながら曲の感じに合うリズム伴奏をつくることができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時は、主旋律のリズムとリズム伴奏のリズムを比べるために、音符カードや休符カードを使って可視化して操作させたり、歌と合わせて演奏したりする活動を取り入れる。さらに、学び合いながら音楽活動を進めることよさや面白さを味わわせるために、グループ内で相互発表・鑑賞させたり、友達からのアドバイスをワークシートに記入させたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時 (分)	教師の具体的な働きかけ
課題把握	<p>1 「いろいろな木の実」を聴き、前時の学習を振り返る。</p> <p> 主なふしは、リズムによって歌う曲だったよ。「ブラジル」のように、楽しい感じの曲だね。</p> <p>思いや意図</p> <p>この曲も、リズム伴奏を工夫して、楽しい感じが出せるような演奏にしたいな。</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲の感じについて振り返らせるために、前時で出された曲の感じなど子どもの考えを出し合ったり、主旋律のリズムを音符や休符のカードで提示したりする。 ○ 見通しをもって学習に取り組めるように、曲の感じに関わるリズム伴奏を、既習の楽曲である「ブラジル」と聴き比べたり、ワークシートで既習内容を想起させたりする。
課題追求	<p>2 本時の学習について話合う。</p> <p>曲の感じに合うリズムばんそうをつくろう。</p> <p>3 リズム伴奏つくりの方法を確かめ、自分なりのリズム伴奏の表現を工夫する。</p> <p>リズム</p> <p>主旋律のリズム 比較 リズム伴奏</p> <p>歌のリズムとリズム伴奏が同じだと、おかしいわ。</p> <p>楽器の音色 比較・関係付け リズム伴奏</p> <p>このリズム伴奏は、トライアングルよりもクラベスの方が楽しい感じになったぞ。</p> <p>リズムフレーズの反復</p> <p>演奏しているうちにわからなくなってくるぞ。</p> <p>拍を数えたり、歌と合わせたりして演奏する工夫も大切だね。</p>	30	<ul style="list-style-type: none"> ○ リズム伴奏をつくる見通しをもたせるために、音楽を形づくっている要素のうち「リズム」と「リズムフレーズの反復」に観点を絞って活動する。 ○ 様々な楽器の音色を試しながら表現を工夫するために、既習の楽器を準備しておく。 <p>すず、トライアングル、カウベル、タンブリン、カスタネット、シェーカー、アゴゴベル、フロアトム、クラベス、ギロ など</p>
表現の工夫	<p>4 相互発表・鑑賞をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達は休符に気を付けて演奏していたぞ。工夫してもう一度やってみたいな。 ・ クラベスやギロを使うと、曲の感じが変わって面白いな。 	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主旋律とのリズムの組合せを比較しやすいように、主旋律のリズムとリズム伴奏のリズムを縦に比較できるワークシートを使用する。 ○ 技能差に対応するために、主なふしである歌と一緒にリズム伴奏を合わせたり、速さを遅くしたり、様々な楽器を試させたりして曲の感じが変わることを味わわせ、次の活動への意欲付けを図る。 ○ 振り返りや学び合いの際の参考にするために、アドバイスはワークシートに記録させる。 ○ 次時以降の音楽活動への意欲付けや目指す表現の目標に向かって見通しをもたせるために、本時の学習の感想を発表させる際に、「次の時間はどのような工夫をしていきたいか」と発問をする。
相互発表・鑑賞			
まとめ	<p>5 本時を振り返り、学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主なふしのリズムとリズムを比べたり、楽器の音色を工夫したりすると、曲の感じが変るのがわかったぞ。 ・ 楽しい曲の感じが出るリズム伴奏ができたから今度は歌と合わせてみたい。 		